

大原神社

大原神社は 852 年に建立された神社で、本殿は 1796 年に再建されました。神社の本殿と絵馬殿（絵馬を展示するための特別な建物）には、35 の絵馬のコレクションがあります。これらの絵馬には、この地域の養蚕や田作り、京都の南部にある平等院などをテーマにした情景が描かれています。最も古い絵馬は 1599 年のものとされています。

大原神社は出産に関係する場所としても知られています。大原神社には江戸時代（1603 年～1867 年）、明治時代（1868 年～1912 年）の出産・育児に関する資料が集まっており、国中から助産師が訪れる場所となっています。そして出産はかつて死亡率が高かったために、古来日本では穢れたものと考えられていました。この産屋は、そんな出産の穢れを取り除き、女性が出産時に神の祝福を受けられるように作られたのです。

産屋は、少なくとも奈良時代（710 年～794 年）から日本に存在していたようです。大原の産屋は現在でも残っている数少ない産屋のひとつで、日本人の死生観において、生の世界と死の世界を分ける象徴である、川のそばに建てられています。なぜなら出産は 2 つの世界の間で起こる物だと考えられているからです。母親は産屋で出産し、体力を回復しながらこの場所で 1 週間ほど暮らしていたようです。この産屋がいつ建てられたのかは定かではありませんが、ここで最後に赤ちゃんが生まれたのは 20 世紀の変わり目だったようです。また、ここの砂は縁起の良いものと考えられており、安全な出産のためのお守りにも使用されています。